

ネギの周年生産を可能にした春夏どり技術

ネギは1年中需要がありますが、埼玉県産のネギは秋～冬が主力で、春～夏は、抽台（ちゅうだい）などの課題があり出荷量が少なく、端境期となっています。このため、5～8月に出荷する技術を確立して、周年生産を実現しました。

5～6月に収穫するためには、品種「春扇」を9月下旬～10月中旬にハウス内に播種し、1～2月に移植します。冬期はトンネル栽培とし、移植後は、マルチや灌水をすると生育促進に効果的です。7～8月に収穫するには「夏扇4号」「秀蔵」などを10月中旬～11月上旬にハウス内に播種し、3月頃移植します。

※ネギの抽台（ちゅうだい）：晩春から初夏にかけて、葉の間から花茎を伸ばし先端に花（ネギ坊主）をつけること。硬くなり商品価値を失います。

1 5～6月どり栽培



（苗を移植機に適した大きさに調整）



（移植作業）

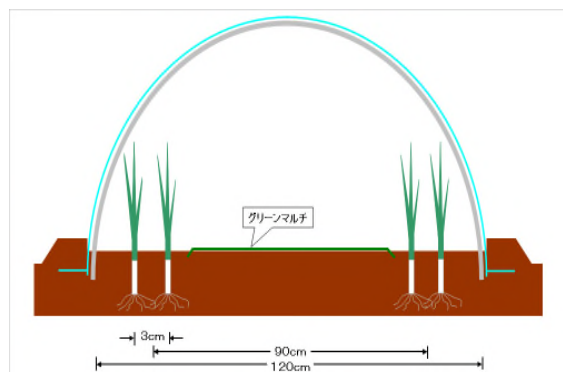
品種「春扇」を9月30日～10月15日にハウス内に播種します。1月中旬～2月上旬に苗をとって、平床用の移植機械を用いて移植します。

移植時期が寒い時期に当たるので、畝と畝の間にグリーンマルチを敷き、裾を留めます。次に図のように2畝分が一つのトンネルとなるようフィルムで覆い、裾を埋めます。

気温の上昇する3月上旬頃からトンネルに孔を開け換気します。4月上旬にはトンネルを除去します。



（畝と畝の間のマルチ）



（2畝を一つにしたトンネル）

2 7～8月どり栽培

品種「夏扇4号」「秀蔵」などを、10月中旬～11月上旬に播種します。トンネル内で育苗し、3月上旬～4月上旬に苗をとって移植します。